

第 152 号 (2015)

〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10

NPO ワールド・フрендシップ・センター

理事長：山根美智子 館長：Richard&Xinia Tobias

TEL (082) 503-3191 FAX (082) 503-3179

E-Mail: wfchiroshima@nifty.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

WFC blog: <http://www.wfcpeace.blogspot.jp/>

WFC50 周年記念特別号

目次

1.	ジェシカ・レンショウ.....	1
2.	マイク・スターン	6
3.	鈴木澄子	10
4.	藤岡惇	12
5.	タイヒラー曜子	14
6.	ラニー・ウィグ	16
7.	マーゴ・バックス	18
8.	タニヤ・マウス	21
9.	アシュリー・ウォーカー	22
10.	ケイリー・パーカー	23

1. ジェシカ (バーバラ・レイノルズの長女)

WFC50 周年記念行事の終わりに姪の一人が感想を端的にまとめた。それは私達「レイノズー家」全員の気持ちだった。「期待をはるかに超えていた！」

WFC の 50 周年記念は雨が降らなければ、天国のようだった。母は常日頃から自分の大好きな知り合いが自分の大好きな他の人と知り合うことを望んでいた。母の考える天国とは、大勢の家族が集まって楽しいことをし、すばらしい人達が時を共に過ごす（終わりのない時をともに過ごす）というものだった。

私の大好きな思い出：

美智子さんの笑顔、立花さんの笑顔、みんなの笑顔。とりわけアシュリーの笑顔。

家族の再会。

愛にあふれていた。



（左：山根美智子さん、
右：立花志瑞雄さん）

母の本「鳥のさえずり、瞑想」を読むと、母の逸話を知ることが出来る。（私は他にもたくさん持っているのですが、問い合わせいただければ、私の本「母：バーバラ・レイノルズの良心、勇気、思いやり」の pdf を送ります。）

都合も考えず、急に通訳をお願いしてしまったにもかかわらず、素晴らしい仕事をしてくれた私の勇敢な通訳者に表彰状をあげたい。デイジー・ティブズ一家に会えて、彼女が、第二次世界大戦後間もなく、フロイド・シュモアの「ヒロシマの家プロジェクト」に参加したことを知った。

森下弘先生、松原美代子さん、木戸マサ子さん、近藤紘子さんなどの旧友に会え、リチャード&シーニア・トバイアス、タニア・マウス、ルース・マシュマイア、そして特に母を知る人達と新たに友達になった。

山根美智子さん達の指導でお好み焼きの焼き方を学んだ。

森祐理さんは、オズの魔法使いに出てくるグリンドのように、ワンワールドピースコンサートに来ていた人みんなに神の恵みを与えた。彼女にとっての神の証明は神戸の震災で弟さんを亡くした悲しみを、大惨事に見舞われた人々へ歌を歌うという職務に変えたこと。

平和公園の碑めぐりに初めて参加した。たくさんのことを学んだ。

平和資料館館長、志賀賢治さんと IGL 理事長、永見憲吾さんの母への温かい言葉。

50 周年記念式典の後、マーゴと私がバーバラの家族だとわかりレストラン「エルク」の人

たちから大歓迎を受け、デザートをサービスしてもらった。

マーゴとリサが彼らの祖母について語るのを聞いた。「次世代の人たち」（マーゴやリサ）が興味を持って話を聞きいていた人たちと平和について意見交換をした。親愛なる友人の被爆者、松原美代子さんに姪たちを紹介した。

WFCの朝食：居間の低いテーブルで畳に座って食べたざっくばらんな朝食、台所でイスに座って食べたちょっとかしこまった朝食。

姪の娘たちだと思って私の目の前の三つ編みを引っ張ったら、全く知らない人だった。（田城マイラさん、またはレオナさんだったかしら？）

ギター、バンジョー、ハーモニカ、ピアノ、オカリナ、タンバリン、カスタネット、琴、三味線、太鼓の奏でる音楽。コンサートでは手を振って、みんなで核兵器にさようならをした。

「アンドレとの夕食」ではなくて、「松原美代子さん、リチャード&シーニア・トバイアスと山根美智子さんと、NHK テレビの人たちとの夕食」。私はTシャツとテニスシューズを履き換える暇もなく松原美代子さんに会い、ANAホテルのレストランのプライベートルームで豪華な食事をとった。NHKテレビのプロデューサー、カメラマン、音響係りは私達が発した一言、一言を録音し、食事の大部分をビデオに撮った。それはいささか気乗りがしないものだったが、食事の終わりにまた松原美代子さんがみんなで歌を歌おうと言い出したのには、みんな啞然とした。しかし、山根美智子さんのリードで勇敢にも長い柄の先のマイクに向かって、日本の皆さんに「主われを愛す」を歌った。

七色の虹の色の折り鶴は、がんばって希望を持つことを思い出させる。

マスコミに取り囲まれて、母と一緒に広島にいた時のことを思い出す。中国新聞と読売新聞にWFC50周年記念の記事が掲載された。

縮景園の美しい池、島、橋や木々。曇り空でも、日本的で素敵だった。

障子の開く音。雨の音。（カリフォルニアではあまり聞けない）広島を歩いて見てまわる機会。（父の話によれば、いつもそれがベストな方法。私もそう思う。）



(WFC Show & Tell、留学生会館にて)

グループ写真。(私達が行くところにはどこにでも現れ、おびただしい枚数の写真を撮った、長谷川さんという名前の小柄なフォトジャーナリストが、私達のグループ写真に納まった一枚は気に入っている。センターは開放的だ。)

山根美智子さんの無二の親友しんちゃん。いったいあの高い声はどこから出るのか？

WFC は人であふれていた。(何人集まったのか？靴を数えて 2 で割るとわかる。) おなかは多国籍フードで満腹だ。

火曜日の英会話クラスの皆さんの親切とやさしさ。私達レイノルズー家にすき焼きをふるまい、翌朝には宮島に連れて行ってくれた。獣医のリサは、立ち止まっては宮島の鹿を観察していた。彼女曰く、「基準血液検査をまずしなければ、鹿の健康状態はわからない。」(スコット曰く、「リサはバンビに血液検査をしている。」) 9 歳のアシュリーは鹿の頭をなでては数を数え、島にいる 500 頭からその数を引き算していた。写真に写った赤い鳥居のある湾はヨット、フェニックス号の誕生の地とつながっている。

初めての温泉リゾート。

神楽。華やかな衣装をまとったのチャンバラ。見事な、威嚇するような面をつけての太刀振る舞い。私はその後で、刺繍が施された、12 キロの重さの 200 万円もするその衣装を着せてもらい、想像上のたてがみのような長い髪を右へ左へとぐいっと振りながら怖がらせようとした。

うちあけ話を一つ。私達の家族の女性全員と一緒に、何も身につけず風呂に入ったのはスリル満点だった。

温泉での宴会は、刺身、海草、魚の卵、イカ、タコ、ウナギ、クラゲ（それにイノシシ）・・・まるでロングビーチに帰り、太平洋の水族館で食べ歩きをしているようだ。

お辞儀をしてお茶を飲む。とても礼儀正しい。

髪が白いと大切にされる。アメリカでは年寄りそれほど尊敬されない。多くの人が、私は母に似ていると言う。しかし、私はジェリリンが言ってくれた言葉が大好きだ。「今まで見た年配の人の中で一番かわいい髪よ。」

細かいところまで世話を焼いてもらった。（もしジェリーが私に優しくしてくれないなら、正直なところ家に帰りたくないと思っただろう。）

バスの中で日本の子供の歌を歌った。懐かしい。



（バーバラの碑の前で、左から：スコット、アマンダ、キンザ、アシュリー、ジェリリン、リサ、ジェリー、ジェシカ、ケーリー）

いろいろあった 1 週間の中で特に心に残ったことは、母の二世代の子孫と、母の記念碑を訪れたこと。（ケントのウェブアルバムの 487 番）

http://www.kentsweitzerphotography.com/Events/WFC-NPO-50th-Anniversary-2015/49294219_t3MxW7 をクリックされると写真が見られます。

この記念行事とそれに参加した人たちを見て、母が生きていればどれほど喜んだことだろうか。

後で夫ジェリーと私だけで母の記念碑を訪れた。そのほんの数分間、空は完璧に晴れ上がり、日がさし、鳥が歌い始めた。

生涯の友達へ

追伸：ジェリーリンの一番の思い出は、きっとビュッフェのチョコレートファウンテンだと思う。

2. マイク・スターン （シンガーソングライター）

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、アメリカによって世界最初の原爆が広島に投下されました。今までに使われた爆弾の 2000 倍以上の威力で、TNT 火薬の 12,000 トンから 15,000 トンに相当しました。5 平方マイルの区域が壊滅し、市内の 60% の建物が破壊されました。当日の死者数は正確には分かりませんが、少なくとも 7 万人が即死し、1945 年の 12 月までに火傷や放射能で死者数はその倍の 14 万人に及んだと推定されます。それは当時の広島市の人口の



（森祐理さんとマイク・スターン）

四分の一相当します。更にもっと多くの人々が長期の病いや後遺症に苦しみました。その 3 日後、アメリカは長崎に 2 つ目の更に強力な原爆を落としました。その爆風・熱線と放射線を浴びた人々は被爆者と呼ばれます。

ヒロシマに咲く一つの花
ほとんど誰も知らないのは
時が来れば色が変わること
花は知っているのか

ヒロシマに咲いた一つの花は、ワールドフレンドシップセンターとして知られています。その WFC が先月 50 周年を祝った時、私は妻のキャロルと共に、光栄にもその行事の一端を担いました。1965 年にクエーカー教徒のバーバラ・レイノルズが創立した WFC は、世界中から人々が集って体験を語り合い、平和について考え、被爆者の証言を直接聞く機会を提供しています。WFC の使命は、多くはボランティアや理事の献身的活動によって支えられています。その人々は私たちのかけがえのない友人になりました。

WFC を創立する何年も前の 1951 年に、バーバラ・レイノルズは夫のアールと子供たちと一緒に広島を訪れました。アールは、アメリカ政府の原子力委員会のために研究を行う人類学者でした。その研究の目的は、原爆の放射能が子供に及ぼす影響を調査することでした。3 年間の滞在中に、アールはヨットを建造し「ヒロシマのフェニックス号」と命名しました。フェニックスは、神話では廃墟から復活する不死鳥のことですから、ふさわしい名前でした。その後、フェニックス号で 1954 年から 1958 年にかけて世界一周航海（主に冒険と楽しみのために）に出かけました。しかし 1958 年に、ハワイでゴールデンルール号というヨットの乗組員と出会います。ゴールデンルールとは、「自分にして欲しいことを、他の人にしてあげなさい。」という聖書の言葉を思い起こすので、これもまたふさわしい名前です。ゴールデンルール号の乗組員は、アメリカの核実験に抗議して太平洋上の航海禁止海域に侵入する決意を發表しました。しかし、ホノルル出航後すぐに逮捕され拘禁されました。レイノルズ一家は、ゴールデンルール号の乗組員の抗議活動に感銘を受け、フェニックス号がその後を引き継ぎました。目的を發表しないで、フェニックス号は航海禁止海域に侵入しました。アールは逮捕され、2 年間裁判で争うことになりました。

これらの船の名前と歴史的背景を考えると、非常に興味深いと同時に皮肉に思えます。アメリカは核兵器の使用を非難されないようゴールデンルール号を没収し、その後フェニックス号の航海も止めて拘束しました。しかし、再び不死鳥は飛び立ったのです。

裁判が終わって、1961 年にレイノルズ一家は広島に戻りました。驚いたことに彼らは英雄の凱旋のような歓迎を受けました。原爆で受けたケロイドの痕のある女性がバーバラに近づき、自分たちのために行動し、声を上げてくれたことに対して直接感謝を示しました。バーバラの被爆者への対応は、アールのように科学的ではなくもっと個人的でした。バーバラは被爆者たちに、体験したことや原爆はどのようなものだったか聞きました。被爆者の話は彼女の心を深く打ち、その後一生忘れられませんでした。広島の平和公園にある彼女の碑文には、「私もまた被爆者です」と書かれています。

先月の 50 周年記念式典の招待客の中には、フェニックス号で出航した時 10 才だったバーバラの娘、ジェシカ・レンショウと、2 人の孫と数人のひ孫がいました。短いけれども充実

した1週間で、私とキャロルはみんなのことが大好きになりました。こうしてヒロシマに一つの友情の花が咲いたのです。

広島に咲いたもう一つの花はデージー・ティブスです。彼女は1949年にシアトルから広島に家を建てるためにやって来た、素晴らしい4人の仲間の一人でした。彼らは反戦と原爆に抗議する意志を表明したいと思いました。原爆の犠牲者を援助することが、その最善の方法だと考えました。デージーの他には、フロイド・シュモーやエモリー・アンドリュース・スンドリュース牧師やルース・ジェンキンスがいました。

フロイド・シュモーはそのグループのリーダーでした。彼らはクエーカー教徒で、第1次・第2次世界大戦では、良心的兵役拒否者でした。1949年から1953年にかけて広島で家を建てた後、ワシントン大学の森林学の教授や、マウント・レーニア国立公園の管理者を務めました。90歳代の時、彼は大学の集会所の南側にシアトルピースパークを建設するのに尽力しました。そこには千羽鶴とサダコの像があります。



(シュモーハウスにて)

エモリー・アンドリュースは、シアトルの日本人バプテスト教会で一番長く務めた牧師でした。広島に行く前、彼は家族とともにアイダホ州ミニドカに移り、そこで1942年から44年まで家を追われてアイダホ州に強制収容されたシアトルの日系人を牧師として支えました。その後広島に来て、フロイド・シュモーと力を合わせて家を建てました。

ルース・ジェンキンスは、アラバマ州出身の教師で、デージー・ティブスも、後にシアトル教育支援計画を指揮した教師でした。1959年発行の雑誌エボニーには、彼女のことが特集され、美しい写真も掲載されています。デージーの娘、デブラ・ドーソンと息子のクレイグ・ドーソン、それに孫のクリーボン・スティールが、先月の記念式典に招待され、私たちの友人になりました。そうです。広島とシアトルにもまた花が咲いたのです。

1950年代から60年代にかけて、私はブレズレン教会で育ち、第2次世界大戦後、ハイファアー・プロジェクトやブレズレン・ボランティア・サービス（BVS）を創設したダン・ウエストについて何度も話を聞きました。農業経験のある者は「海を渡るカウボーイ」となって家畜を船に乗せ、戦乱で疲弊した国々に届けました。自給できる食料の基盤と友情を築くことによって、戦争を防ぐことができるということを人々に示すためでした。1980年にBVS

の最初のボランティア館長として WFC にやってきたのは、メアリー・シュメルツァーでした。彼女は私たちの親友のお母さんでした。キャロルと私は、先月のコンサートの中で、彼女の写真と逸話を紹介しました。BVS 過去 35 年間 WFC に館長を送り続けています。そうなのです。ヒロシマに一つの花が咲いたのです。

ラリーとジョアン・シムズは、2011 年から 2013 年まで館長を務めました。ケント&サラ・スウィツァーは 2007 年から 2009 年までの館長でした。シムズ夫妻、スウィツァー夫妻と現在のシーニア&リチャード・トバイアス館長全員が先月の式典に出席し、WFC への多大な貢献をたたえられました。その間、シーニアとリチャードは私たちの接待と諸行事の準備で大忙しでした。興味深いことに数十年前リチャード・トバイアスは BVS の「海を渡るカウボーイ」の一員で、1950 年代にダン・ウエストの散髪をしたそうです。それで先月、私の髪も切ってくれないかと頼みました。そうなのです。またヒロシマに一つの花が咲いたのです。

2006 年にシアトルで、私たちはブレズレン教会の関係から、日本から来る PAX の受け入れを頼まれました。我が家がリフォーム中で住めなかったので、キャロルがジョアン&ラリー・シムズ夫妻に助けを求めました。彼らが WFC 館長を務めることになったのは、全て我が家のリフォームのお陰だとラリーは半ば冗談で言います。そうです。広島とシアトルにもまた花が咲いたのです。



(左から：藤井正一さん、キャロル、ラリー、ジョアン、サラ、シーニア、リチャード、ケント)

それとは別に、キャロルと私は 2009 年オレゴン州アミティとポートランドに来た PAX メンバーだった山根美智子さんと渡辺朝香さん（歌手で WFC ピース・クワイア指揮者）に初めて会いました。私は「One World」を含め 2~3 曲歌いました。朝香さんは、広島に帰ってから、私とジョイントコンサートをするという夢を語り始めました。その時の館長のジョアン&ラリー・シムズ夫妻と力を合わせて、その夢を「ワンワールド・ピース・コンサート」という形で実現させました。そのコンサートは大成功で、過去 4 年で 3 回も行われ、毎年の行事のようになっていきます。是非今後も続けたいと望んでいます。広島とアミティにもまた花が咲いたのです。

広島で行われた最初の「ワンワールド・ピース・コンサート」を説明するために、数年前にシアトルのブロードウェイ・ユナイテッド・キリスト教会（私の兄ダンがそこで何年も牧師をしました）のメンバーだったリンとハーラン・高橋さんとお話しましょう。私が「Take Only What You Can Carry」という曲を書くきっかけになったのは、リンさんのお陰です。その曲は第2次大戦中の日系アメリカ人の体験を描いたバラードです。シアトル地域でこの曲を歌っていると、日本人バプテスト教会（JBC）や二世の日系アメリカ人社会との交流が広がりました。ミニドカで強制収容された日系人の幼なじみのヨシュ・中川やハーブ・土屋とも知り合いになりました。JBCの日本語で説教するユキオ・サキヤマ牧師とも出会いました。彼に「Take Only What You Can Carry」という曲の翻訳を頼みました。日本のコンサートでわかりやすくするためです。彼はその曲だけでなく、数年間にわたりその他の曲も翻訳してくれました。また「As If the Flowers Knew」という曲の2カ国語の朗読も引き受けてくれました。**広島とシアトルにもまた花が咲いたのです。**

永年にわたり、広島、シアトル、アミティで私が関わってきた様々な団体や人達の間に通しているものは何でしょうか。それは愛で結ばれた絆なのです。それは、まさにイザヤ書35章の1～2節に書かれていることなのです。*荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ／砂漠よ、喜び、花を咲かせよ／野ばらの花を一面に咲かせよ。花を咲かせ／大いに喜んで、声をあげよ。*

廃墟の中から、1つの花が本当に咲くこともあるのです。フェニックスは本当に焦土から舞い上がることができるのです。神話ではありません。本当のことなのです。過去にも、現在にも、そして未来にも起こるでしょう。ただ私たちが平和と友情の種を新しい世代に撒き続ければ、この花は広島でそして世界中で咲くことでしょう。



（キャロルとマイク・スターン）

3. 鈴木澄子（元理事、千葉県君津市在住）

ワールドフレンドシップセンターについて想うこと

World Friendship Center 50周年おめでとうございます。

50年、Barbara Reynoldsの強い意志と熱情を絶やすことなく今日まで受け継いでこられた方々の並々ならぬ誠意と努力に感慨深く想った50年の記念式典でした。

バーバラさんのことを知ったのは私がまだ学生の頃、1958 年アメリカの水爆実験に抗議するためヨットで水爆実験地域にご夫婦で乗り込み逮捕されたニュースに「なんと勇敢な家族」と思って読んだことが今でも記憶に残っています。1986 年 11 月夫の転勤で広島に越してきて、中国新聞紙上で WFC とバーバラさんのことを知り、まだ皆実町にあった WFC の門をたたいたのがその翌年の 4 月でした。原爆乙女をアメリカへ治療に送るため、ノーマン・カズンズ氏、原田東岷医師、谷本清牧師などの大きな賛助・支援があったこと等



は WFC に来て初めて知りました。それから 1989 年 6 月まで 2 年 2 か月の短い期間の広島滞在でしたがこの期間がその後の私の人生に大きな影響を及ぼしたことは確かです。

(WFC50 周年記念式典、縮景園、清風館にて、前列左端、鈴木澄子さん)

当時の WFC の館長ビル＆ジニー・チャペルに暖かく迎えられました。歴代館長は教会を通じて派遣されてくるボランティアと聞いて、年単位のボランティアなんて、今まで日本では聞いたことがなかったので大きな驚きでした。次に空先生の案内で平和記念資料館、平和公園内の色々な碑を見学して回り、1945 年 8 月 6 日の世界初の原爆投下の事実は知っていても、その実態は殆ど知らないで今日まで来たことに、後ろめたさと申し訳なさを痛感しました。そして被爆者は、被爆による身体的苦痛やさらに差別的苦しみにより今日まで耐えてきた方々です。だから、今までの苦しみをどう分かち合えば受け入れてもらえるのか、いつも戸惑っていました。チャペル夫妻はセンターの経済的窮地を立て直すため、幼児から大人までの色々な英語クラスを開始しました。ほかにも宿泊者のお世話、宿泊者と日本人スタッフ・被爆者との対話の接点作り、平和公園のガイド、むつみ園訪問、マスコミへの対応、広島市の各種イベントへの積極的参加等々・・・これがボランティア？とその質の高さにただただ驚きました。

英語クラスに参加していたある日、座っているジニーの足首をふと見たとき、右あしくるぶしに赤くなった大きな座りだこができています。座卓に座っての英語クラス、会議等、座ってやる作業がいかに多いかを物語っていました。今日私たちの日常生活は量の

部屋の座卓から椅子とテーブルの生活に変わり、たこができるほど座ることが無くなっているのに…と思うととても痛々しく申し訳なく思いました。もしかして、歴代館長にも思い当たることがあるのでは思うのですが。

ここまで書いてきて、ふと思い出しました。あの有名な「アッシジの聖フランシスコの平和を求める祈り」を。「慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することをわたしが求めますように」(I may not so much seek to be consoled as to console; to be understood as to understand; to be loved as to love)

館長をされた方々は全く違う環境の中で、したこともない生活の連続、辛いことも多かったことと思います。それでも館長の重責を全うされたのも、このような深い「祈り」を心の支えに取り組んでこられたからだと思うのです。そして、その時その時の館長たちを支えてきた WFC のスタッフの方々、今まで協力して下さった方々に心から拍手を送ります。



(ジニーとビル、異文化体験の時)

4. 藤岡 惇 (立命館大学教授)

日米学生交流の旅でお世話になって

日米交流で原爆を探究する「平和巡礼の旅」を、アメリカン大学の卒業生で被爆 2 世の直野章子さんと同大学の歴史学教授のピーター・カズニックさんとともに始めたのは 1995 年の 8 月でした。1997 年からはこの旅は、立命館大学の正式の科目となりました。アメリカン大学を卒業された近藤紘子さんにこの「旅」の中軸を支えていただくようになったのも同年のこと。この間の参加者数は立命館側から 290 名、アメリカン大学など海外の大学からは 280 名ほどになります。

WFC は毎年の 8 月 6 日の被爆式典終了後の午前 10 時頃から「被爆者証言の集い」を開かれます。これに参加するために WFC を初めて訪問したのは 1997 年の時でした。1999 年の 8 月 6 日に、WFC の玄関につながる路地の前で写した記念写真を見ますと、近藤紘子さん、ピーター、サンフランシスコ西郊のリバモアの町で核兵器研究所の閉鎖を求める活動をしていたマリリア・ケリーさんなど、12 名が写っています。当時の若々しい風貌が印象的です。

それ以来、ほぼ毎年参加していますから、1回につき、8人がお世話になったとすると、総計では130名ほどの学生が訪問したことになります。大抵、会場の部屋が満員となっています。私たちの一団は遅れて現れ、「割りこみ参加」するにもかかわらず、暖かく迎えていただいたことに御礼を申し上げます。

最初の頃だったと思いますが、WFCの現在の理事長の山根美智子さんが、人形を使って腹話術をなさっているシーンを拝見し、家族的で飾らぬ雰囲気が好きになりました。4回目の1999年の8月5日の夜には、定宿の中特会館が満員となったことから、ピーターと私とを2階の客室に泊まらせていただき、ホームレスになることから私たちを救っていただきました。

8月6日は朝早く起きますので、昼下がりとなると、学生たちは空腹を訴えます。センターの前の道を川に向かって歩くと、川沿いの道との角地にお好み焼き屋がありました。きつぷのよいお内儀特製の広島焼きをいただき、舌鼓を打ったことを鮮明に覚えています。

縮景園で開かれたWFC50周年の記念パーティでは素晴らしい方々とお会いできました。バーバラの娘のジェシカさんやウイルミントン大学のピースリソースセンターの関係者とお会いできて、うれしかったです。小谷瑞穂子さんの『ヒロシマ巡礼——バーバラ・レイノルズの生涯』の記述がリアルな形で迫ってきました。



(左の写真：左から：近藤紘子さん、乗松聡子さん、藤岡惇さん、ピーター・カズニック)
(右の写真：長崎での20周年)

アメリカン大学・立命館大学の「平和巡礼の旅」の20年の歴史については、『日米交流で原爆を探究する旅 20年の歩み——真実の共有と和解をめざして』（150ページ）にまとめました。私のホームページ内の「藤岡 惇の論文を読んでみませんか」の部屋で公開しています。 <http://www.peaceful.biz/contents/7-8hiroshima.pdf> をクリックされると、

全文を読むことができます。

私たちの「巡礼の旅」にオアシスの場を提供していただいた WFC が 50 年の歴史を刻まれたとのこと、その美しい足跡に敬意を表します。

5. タイヒラー浦田曜子（第二回巡礼団学生通訳として参加）

バーバラ・レイノルズの祈念と WFC 創立 50 周年記念の会に参加して

バーバラの記念碑をお披露目した日も凄い雨だったそうですが、2015 年 4 月 10 日は雨、あめ そして冷える日でした。てるてる坊主が十分ではなかったか。バーバラが「わたしも被爆者です」と言ったそうで、改めて当時のアメリカから敗戦国日本に渡り、広島と長崎に心を託したその心中を、改めて考えさせられました。ひとつの関与が次の関与へと連なったのでしょう。普通の人にはできないことを実現していった彼女。理想・理念をどこまで実現できるのか、苦悩の年月だっただろうと。また、その彼女の姿を遠くから眺め、彼女が平和公園でひとり編物をしながら、心の平安を求めているのか、と哀しいまで彼女を想い、彼女を静かに「守った」人達がいたらしい、とも知ることができました。



（左から：ジェリー, ジェシカ, タイヒラー曜子さん）

私は第二回巡礼の際、長崎の高原弘子さんとずっと一緒に各国をまわり、貴重な経験をしました。今回、彼女が式典に参加されると聞き、「では一緒に」と広島への旅を予定しました。当時アメリカで現地参加の方を含めて 15 人程であったかつての学生通訳達にも声をかけ、「皆で行きましょう」と予定しました。しかし、結局最後は 2 人だけになったのが残念でした。学生通訳選出には当時の ICU の副学長、学務長などもかかわっていて、私は想いを彼らにそしてわが母校にも馳せました。

大学卒業後、第二回巡礼団が訪れた西ベルリン（当時）にあったマックスプランク教育研究所で、あるユネスコの研究プロジェクトに従事、縁あって結婚、現在までドイツに住んでいます。1945 年 5 月 8 日はドイツの敗戦宣言の日。「それがドイツ解放の日か」というテ

一ゼをめぐって論議があり、最近亡くなられたリヒャルト・フォン・ワイツェッカー元大統領の 80 年代の演説でやっと公にその表現が市民権を得たくらいです。今年もその日前後、戦争と平和を扱う諸々の番組、催しがあり、テレビでは語り部となった人々の古い映像・発言を再度放送していて、大変興味深いものでした。なかでも、今まで唯一、女性としてカトリック神学教授称号をとった、ランケ・ハイネマン女史は、「平和主義者だ、と言うと、バチカンの政治家だの多くの人が控えめ、あるいは疑義を持って対応するが、わたしは絶対平和主義者だ、あの戦争を経験したらそれ以外絶対あり得ないじゃない」と断言していたのが印象的でした。人間がせいぜい 100 歳くらいまでしか生きられないとすると、「もうこりごりだ」というような酷い経験、それを後世に繰り返させないようにしよう、という願望、いろいろな知見、経験も、すべてその人々が亡くなれば彼らの脳と一緒に消滅してしまう。これは残酷な事実。 いわば 表面的次元にしか過ぎない同情 Sympathy をいったいどの程度 Empathy の次元に持ち込み、バーバラがしたように、わが身のこととして考えられるのか、が論点となりましょう。

福島云々も、広島・長崎の経験が十分に生かされず、「平和的利用」という言葉のあや、 罨にわれわれがおちてしまったこと、あるいは学校教育で原子力とか放射能という用語が消滅していったというような状況が背景にあるわけで、物事を総合的にみる力もますます重要になり、また問題視されていくだろう、とも考えました。今年の 4 月は寒々とした日々でした。もっとも今の WFC を支えている多くは、歌い、演奏し、考え、思い、食べ、育てる、など等の能力が素晴らしい、強い活動家の皆様たちのようで、「これからも期待されるな」とも思いました。センターに行けば心が温かくなってくるだろうと確信もしています。



(縮景園、清風館にて、50 周年記念式典)

私はまだ…

思い出の中の私はまだ、広島空港からジェシカ&ジェリー・レンショーと一緒に渡辺さんの車に乗っているところです。最初私は、広島空港というのは 1980 年代の私の記憶の中の広島市内の昔の空港が改装されたものだと思っていました。渡辺さんが 30 分も走った頃になってはじめて私は、新広島空港は三原市の近くで、広島市から車で 45 分ほどの所にあることに気が付きました。渡辺さん、あんな遠くから私たちを乗せてくださってありがとうございました。



21 年ぶりに広島に帰って来て 2 日目の夜です。私はまだ舟入のアメリカ料理店「OTIS」に向かって歩いています。アス (ラニー書)

テーブルプラザ広島市国際青年会館ホテルの近くのテキサス&メキシカン料理のレストランです。スティーブ・リーパーが「OTIS」の入り口近くのテーブルに座って日本人の友だちと一緒に夕飯を食べビールを飲んでいます。スティーブと私はお互いに会釈をしました。私たちはかれこれ 25 年ぶりに再会しました。

わたしはまだ、タニア・マウスと、オハイオ州のピースリゾースセンターに追加できそうな最新の企画について話し合っています。(彼女が資金繰りできたらの話ですが)「なんとかして広島の平和の鐘の複製をオハイオのセンターに置くことが出来たらどんなに素晴らしいでしょう！ウィルミントンカレッジの学生たちがいつも通りがかりに鐘を鳴らし、センターを訪れる人たちが到着を知らせるために鐘を鳴らすことが出来たら！」

私はまだワールドフрендシップセンターの特別なポットラックパーティーで、細かく刻んだゴボウでできた本当に美味しい丸いケーキを頂いています。あのゴボウケーキを作ってくださった方、どうもありがとうございます。大変気に入りました。けれども誰にお礼を言えばいいのかわかりません。(あまりおいしくて5つも食べてしまった私は自分本位だったかも知れません、ごめんね。)ポットラックパーティー全体が素晴らしいものでした。

私はまだ、江波のシュモーハウスに一番近いお好み焼屋さん「バンバン」で、デブラ・ドーソン、クリーボン・スティールと一緒に遅いお昼を食べています。店主の桐原武さんがデブラ、クリーボンと私の三人に話をしてくれました。桐原さんは 10 歳位の頃からおばあさんの背中の痛々しいガラスの破片を何年間も抜き取り続けました。それは原爆の落ちた

日の朝からおばあさんの背中に刺さっていたのです。

私はまだ WFC の Show & Tell で、山根美智子さんの腹話術を驚いて見守りながら、人形が話すのを聞いています。「これは本当に美智子さんの声だろうか、それとも録音して変えてあるのかなあ」と思いながら。実際あの人形にはびっくり仰天してしまいました。

私はまだ平岡佐知子さんのオフィスを訪ねていて、彼女が興味深い色鮮やかな漢字で「反核の聖地」をどのように描くか見せてくれています。反核の聖地とは「核に反対する聖なる土地」の意味で広島平和公園の事です。

私はまだ WFC50 周年記念行事の大勢の参加者たちと共に神楽門前湯治村にいて、忘れることのできない伝統的な料理を食べ、神楽を楽しみ、温泉でくつろいでいます。

私はまだバーバラ・レイノルズのひ孫のジェリリン・テニソン、カエリー・パーカー、キンザ・パーカー、アマンダ・ウォーカーたちと一緒に広島女学院中学ならびに高校の星野校長先生が学校のパイプオルガンでヨハン・セバスチャン・バッハの「ハ長調の序曲」を奏でるのを聞いています。それから星野校長は私たちを、原爆で亡くなった同校の 300 人以上の先生や生徒たちの名前が刻まれた御影石の記念碑に案内してくれました。

私はまだまだ思い出を辿ることができます。ワールドフレンドシップセンターの皆様、また現館長のシーニアとリチャード、りっぱな 50 年記念行事を企画してくださってありがとうございました。素晴らしい方々でした。

最後に私に旅をさせてくれたロン・クラインにお礼を申し上げます。

ところで、広島空港の航空機事故のために、私たちの多くがアメリカへの帰国に際して思いがけない経験をしました。私は岡山空港から東京の羽田空港までの翌日の全日空を予約することが出来たので新幹線で広島駅から岡山駅まで行き、一夜を過ごすホテルを見つけました。



(左から：ケーリー、ジェリリン、アマンダ、アシュリー、キンザ)

岡山では以前私が教えた生徒の大森医師と夕食を共にすることが出来ました。岡山から羽田までの全日空の旅は、どうしたら私の予約券を搭乗券に交換することが出来るか、チェックインカウンターの後ろで職員が4人がかりで悪戦苦闘していた以外は快適でした。羽田空港で18年ぶりに私は懐かしく親しい家族ぐるみの友人である太田さんの出迎えを受けました。私たちは原宿駅の近くのレストランで美味しいビュッフェランチを食べ、その後私は東京の下町から成田まで急行列車に乗りました。

成田ではユナイテッド航空便に乗るのにどのターミナルに行けばいいのかわからず、間違ったバスターミナルで降りてしまいました。やっと他のターミナルでユナイテッドのチェックインカウンターを見つけましたが、ユナイテッドに実際の搭乗券を発行してもらうのにまたまた混乱がありました。それにいつポートランドに到着するかを私の妻に知らせなかったし、それやこれやで貴重な時間を費やしてしまいました。ハイヒールを履いたユナイテッド航空の女性職員は、飛行機に間に合うように彼女と一緒に成田空港の中を大急ぎで走るようにと私を促しました。サンフランシスコ行きのユナイテッド便に最後に乗り込んだのは私だったと思います。結局のところ、広島市のロンのアパートから成田国際空港のフライト便にたどり着くまでは愉快的な旅でした。

WFCの50年記念行事についてほかの記事や写真を受け取るのを楽しみにしています。サンキュウ。どうもありがとうございました。

7. マーゴ・バックス（バーバラ・レイノルズの孫）

WFCの50周年記念行事の感想

来る前に（大学の同僚へあてたメールより）

広島へ行って、血の繋がった祖母バーバラが同世代の仲間と始めた反核・平和活動を引き継いで、国際平和に貢献している活動家たちと会うつもりです。バーバラと血のつながる2人とそこで出会うことになる、今日初めて気づきました。キリスト教原理主義者で中絶反対活動家である叔母のジェシカと、アメリカ陸軍に勤めるいとこのリサです。頭が混乱し、どういう立場で、何をすべきか、急に分からなくなったのもしかたがないように思えました。私は言い表せないほど途方に暮れていますが、それほど悪いことではありません。行けば何とかなるでしょう。

旅行中（メールより引用）

WFCが50年間にわたって発展してきた。その中枢を担う者の誰一人として、英語と日本語の両方が完璧に流ちょうには話せないということは、この団体の興味深い特徴となっている。

私が思うに、その団体が最初に組織された時の極めて不安定な状態がその原因だと思います。日米双方の側にかなり日本語または英語が分かる人がいますが、多くの人は、つかえながら会話をしています。意思疎通が簡単ではないということが、センターが素晴らしい場所である理由の一つなのです。なぜなら、何をすることも言語の壁があるので、合意に達するのにみんなが努力しなければならないからです。



(スティーブ・リーパーと秋葉忠利さん)

記念式典の最中、前広島市長が感動的で見事な祝辞を終えた後、センターの山根美智子理事長が、通訳の必要に迫られた時、彼に通訳を頼みました。彼は同意しました。彼女は、「立ってください。皆に見えるよう立って通訳してください。」と言い、彼は立ち上がって通訳し、また座りました。その後、何やら笑いながらの日本語でのざわめきが起こりましたが、一人の完璧なバイリンガルと思える英語を話す人が、親切に説明してくれました。

「実は、ワールドフレンドシップセンターは、日本の団体としては少し型破りなところがあると言われています。祝辞の後で前市長に通訳を依頼するのはWFCだけだと、今皆が言っていたのです。また、最初の5分だけ参加してすぐ退席するのではなく、祝辞が済んでも最後までいて、通訳までするのは、センターをよく知っているこの前市長だからこそです。」

旅行中（日記より引用）

今朝、娘のジェリリンと早起きして、電車に乗りフェリーで宮島に渡りました。豊かな木々に覆われたとても古い神社で瀬戸内海に浮かぶ有名な美しい島です。港の参道には多くの商店が並び、人なつっこくて、食べ物をねだる鹿がたくさんいました。山羊や観光時期のイエローストーンの黒熊と同じくらい馴れていました。その後、戻って全員でバスに乗り、田舎の素晴らしい温泉に行きました。その信じら



(宮島にて)

れないような場所は映画「アバター」の主役たちが紛れ込んだ村とそっくりで、宮崎駿の映画に出てくるような村でした。私は、ジェリリン・いとこ・叔母・いとこの娘4人・WFCの理事3人と一緒に露天風呂を楽しみました。それから、クラゲ・イノシシ・ゴボウ・茶碗蒸し・イカなどの10品の様々な料理をいただきました。とても美味しかったです。

私たちは言葉では表せないような歓待をうけました。二人の通訳が、午後の時間をとって、ジェリリン・アシュレイ・アマンダ・キンザ・ケイリーの名前にあたる漢字を考えてくれました。そして、その漢字が持つ意味を書いた紙をくれました。明日は、広島市内で長年に渡り高校教師をした人が、娘たちをその高校へ連れて行ってくれるそうです。そこで昼食を取り、授業にもでるそうです。被爆者で20年以上理事長でもあった森下弘先生は、すばらしい書道と詩の本を私にプレゼントしてくれました。

お土産を持って行くように勧めてくれた人たちに感謝します。信じられないことですが、たくさん持っていったお土産が足りなくなりました。フェイスブックの友達の助言が無かったら、今頃は罪悪感と後悔にさいなまれていることでしょう。ただ、もっとたくさんプレゼントを持って行けばよかった。わずか1週間の滞在でしたが、家族のように思える本当に素晴らしい人達に50人以上も会うことになろうとは思いませんでした。

戻ってから(フェイスブックより)

書いておきたいことが一つあります。養女として、今まで私はどこにも本当の居場所がないと感じてきました。してあげるよりしてもらうばかりだという気持ちでいましたが（とても頼れる夫のスティーブ・テニソンにはこの悩みはありませんが）この旅を通してここが私の居場所だという不思議な感覚を覚えました。私の居場所だと本当に思える場所になり、今まではどうしても身近に思えなかったレイノルズ一家とバックス一家の両方の家族に対して、胸を張ってと私の家族だと言えるようになりました。血の繋がりはないものの、WFCの人達は家族なのです。皆さんをとても愛しています。これが家族でなくて何でしょうか。



(マイク・スターンとジェリリン)

フェイスブックから(娘のジェリリンとマイク・スターンの写真)

私は特別な気持でこの写真を載せました。マイク・スターンは、素晴らしい平和活動

家でシンガー・ソングライターです。彼の「You don't have to Carry a Gun」という曲は、「汝殺すなかれ」と「神と汝の隣人を全身全霊で愛しなさい」というキリスト教の教えを表しています。彼の奥さんのキャロルは、彼の演奏活動を陰ながら支えています。想像を絶する残酷な原爆にあっても、国や人種を超え、非暴力を貫く広島から彼の音楽は生み出されています。彼ら2人は、ジェリリンと私のかたくなで、皮肉屋で荒々しい心を解きほぐしました。そして、私の心を、長年忘れていた場所に連れ戻し、ジェリリンの心は、それまで知らなかった場所に導かれたのです。

8. タニア・マウス （ウィルミントン大学ピースリソースセンター コーディネーター）

1975年にバーバラ・レイノルズが設立したウィルミントン大学のピースリソースセンターに新任のディレクターとして着任した当時、私はピースリソースセンターについて殆ど何も知らず、ワールドフレンドシップセンター（WFC）のこともまだ聞いたことがありませんでした。けれども、ここピースリソースセンターで働き始めた第1日目に（2015年1月8日）、バーバラ・レイノルズが1965年に設立したWFCが50周年を祝う記念行事をされるというご案内を受け取り、私はすぐに出席しなければいけないと思いました。一つは日本に、もう一つはアメリカ合衆国にある二つの平和のためのセンターの強い結びつきを保ち続けるために、私はピースリソースセンターを代表して参加したいと願い、もし出席しなかったら、ピースリソースセンターの歴史ならびにバーバラ・レイノルズと彼女の平和のための活動の歴史を結びつけるためのかけがえのない機会を失うことになることになると自覚しました。ありがたいことに、ウィルミントン大学のコミュニティーの仲間たちもこれらの目的のために同様に貢献したいと思っていました。

私は日本への旅の費用の殆どをアイザック・ハーヴェイ基金（ウィルミントン大学のクエーカー教徒の委員達が運営する地元のクエーカー教徒の寄付に支えられた基金）に申し込み、受け取ることが出来ました。旅の残りの費用は、コミュニティーで平和のために奉仕している個人の寄贈者が提供してくれました。



（左から：タニア、リチャード、シーニア、ラニー）

WFCで、私はバーバラ・レイノルズが日本でヒバクシャのために献身したことや核兵器廃絶運動に深く関わったことを学びました。またWFCが地域社会と一体となってヒバクシャの直接の被爆体験と一緒に聞く機会を作るために貢献し、核兵器のない世界を作るためにどんなに重要な役割を担ってきたかを理解しました。けれども最も重要な点は、両センタ

一の歴史を維持するために（その結果として平和の歴史を継続するために）ウィルミントン大学のピースリソースセンターの保管所がどれだけ重要であるかを理解できたことで、私はこれらの所蔵書物を保護し、収集を促進するために力を注ごうと新たな決意を持って帰国しました。

さらに私はバーバラ・レイノルズが日本でヒバクシャの窮状を救うために真心こめて取り組んだことや WFC の歴史を知りました。それらは平和親善大使の旅（PAX）、若者たちのピースキャンプ、翻訳クラスやピースクワイアーとして現在も継続して活動しています。これらの活動はさまざまな才能を持ち抱負を抱いた人々のネットワークでつながり、日本や海外のより大きなコミュニティに非暴力と平和の願いを伝え続けています。

この過去と現在に共通した活動は私に深い影響を与え、私は今後なすべき仕事に新たな信念を持ち、希望に胸を躍らせてウィルミントン大学のピースリソースセンターに帰ってきました。今、私たちは、広島・長崎への原子爆弾投下 70 周年を記念するために、2015 年 8 月 6 日にヒバクシャの証言や、私たちの保管所にある詩や短い物語を用いた 12 時間の徹夜の祈りの会を計画しています。また私たちは、2015 年 9 月 10 日と 11 日にピースリソースセンターの 40 周年記念行事を開催する計画を進めています。私たちはできるだけ大急ぎでこれらの行事の計画に取り組んでいます。（来週にはピースリソースセンターの 40 周年記念行事についてのお知らせを WFC にお届けする予定です。）

WFC の 50 周年記念行事を計画されるにあたって、皆様が一生懸命取り組まれたことについて私がどんなに感謝申し上げているか、言葉には言い尽くせません。私は毎日皆様と再会できるのを待ち望んでいます。

9. アシュリー・ウォーカー （バーバラ・レイノルズのひ孫）

ワールドフレンドシップセンター50周年記念の旅行について（アシュリー宮島にて）

広島で思い出すこと：広島を中心地の公園を歩いたこと。雨が降っていたけれどとてもきれいだった。雨で一層きれいに見えた。（縮景園）

おいしいと思った食べ物：ホストファミリーの清水美喜子さんが家族のために作ってくれた衣の付いた料理（天ぷら）。おむすびもとてもおいしかった。のりが巻いてあるのと、白いおむすびがあった。



広島について知ってみんなに知ってほしいと思うこと：原爆のことと、原爆の影響がどれほど怖いということ。

広島に行って分かった事：バーバラひいおばあちゃんのことで広島に行った。彼女は被爆者を助けるためにワールドフレンドシップセンターをつくった。

今回の旅行で知り合った人、特別に覚えていること：素敵な歌をたくさん演奏してくれたシンガーソングライターのマイク・スターンに会って楽しかった。



ワールドフレンドシップセンターの人たちに伝えたいこと：新しい文化に触れ、これまで食べた事がない食べ物を味わい、人の振る舞いがどれほど違うか知ることが出来て面白かった。文化の違いで驚いたことは、生の魚を食べること。みんな私達にとっても優しくかった。（左から：シーニア、清水美喜子さん、リチャード）

この旅行で一番気に入ったこと：山の中の温泉リゾートです。とても珍しかった。親切な人たち、ごちそう、きもの、最後のとてもかっこいいショー（神楽）・・・まるで小さな「楽園」だった。

10. ケイリー・パーカー（バーバラ・レイノルズのひ孫）

私のWFCでの体験

4月6日から16日まで、私は今までで最も家から遠く離れた場所に行きました。それでも、どういう訳か、ワールドフレンドシップセンターの人々と一緒にいると、自分の国にいるときよりも、くつろいだ気持ちになりました。私たち家族が空港に着くとすぐに、とても親切な人たちが歓迎してくれました。滞在中



（ケーリー）

もずっと気遣って下さいました。会う人、会う人がみんな素晴らしい人たちでした。WFCの50周年記念行事に参加しなかったら、今の自分は違っていたでしょう。アメリカで飛行機に乗った時の世間知らずの少女のままだったと思います。10日後に飛行機から降りたら、人生がすっかり変わることに become とは思いませんでした。この経験により、私の世界観は広がり、戦争と原爆の恐ろしさに気がつきました。そして、私に見習いたいと思う

曾祖母の存在を知りました。広島に来るまで、彼女の偉業について全く知らず、彼女の愛と人間性が、いかに多くの人々に影響を与えたかはじめて知りました。

素敵な清水美喜子さんと孝さんの家にホームステイして、多くの時間を共に過ごしました。私たちを家族同様に迎え入れてくれ、ホームステイが終わる頃には、私も彼らが本当の家族のように思えてきました。彼らの親切やもてなしは何物にも代えがたいものでした。

広島に滞在中、私たちが参加した多くの行事は、WFCが企画し準備しました。お陰で日本文化に浸り、広島の歴史を知ることができました。家族はみんなとても感謝しています。センターの人々は、温かく優しく私たちを受け入れてくれ、居心地が良かったです。平和と友情の歌をマイク・スターンやセンターのみんなと一緒に歌うと、希望や信念で結ばれた仲間の一人だという気持ちになりました。たくさんのすばらしい人たちに囲まれ、とても穏やかな気持ちになり親密感が湧いてきました。

広島のWFCでの体験は、一生忘れられないでしょう。今まで経験したことがなく、これからのないかもしれない人生を大きく変える体験でした。センターで過ごした時間のお陰で、今までより物をよく見、平和を愛する人、もっと深く、もっと広く考える人になりました。またいつか、訪れたいと思います。なぜなら、出会った人たちが忘れられなくて、これからも行きたくなると思うからです。



(神楽門前湯治村の舞台の横で、左から：ケーリー, アマンダ, キンザ, スコット)

写真提供：ケント・スウィツァー

http://www.kentsweitzerphotography.com/Events/WFC-NPO-50th-Anniversary-2015/49294219_t3MxW7

友愛編集委員：ジム・ロナルド、山根美智子、平岡佐知子、栗原尚美

翻訳者：平本隆子、兼綱寿美子、タイヒラー・曜子、山根美智子、平岡佐知子

発行者 特定非営利活動法人ワールドフレンドシップセンター

発行所 〒733-0032

広島市西区東観音町 8-10

(C)NPO World Friendship Center 2015

無断転載、複製を禁ず